

# 経済・金融フラッシュ

No.07-007 2007/04/27

## 鋳工業生産 07年3月～6 四半期ぶりの減産

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

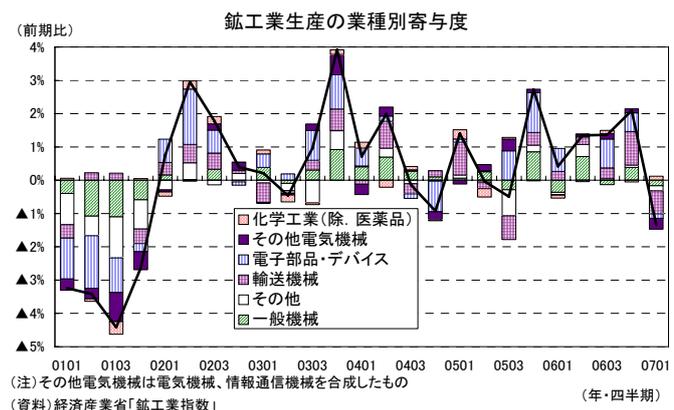
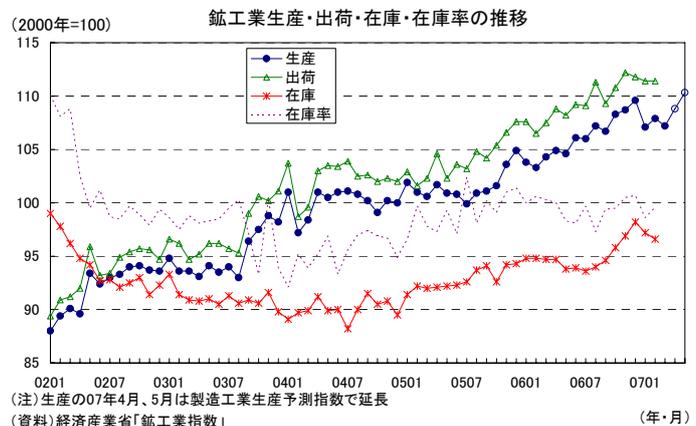
TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 1-3 月期の生産は 6 四半期ぶりの低下

経済産業省が4月27日に公表した鋳工業指数によると、3月の鋳工業生産指数は前月比▲0.6%と2ヵ月ぶりに低下し、市場の事前予想(ロイター集計:前月比1.1%、当社予想は1.8%)を大きく下回った。出荷指数は、前月比▲1.5%と2ヵ月ぶりの低下、在庫指数は前月比▲0.5%と3ヵ月連続の低下となった。

生産を業種別に見ると、在庫の大幅な積み上がりが続いている電子部品・デバイス(前月比2.9%と3ヵ月ぶりに増加したもの)、輸出ウェイトの高い一般機械(前月比▲4.7%)、電気機械(同▲8.1%)、情報通信機械(同▲2.3%)などが軒並み大幅な低下となった。

1-3 月期の生産は、前期比▲1.4%と6 四半期ぶりの低下となった。電気機械(前期比▲4.6%)、輸送機械(同▲4.5%)、非鉄金属(同▲2.9%)などの低下幅が大きかった。



## 2. 鉱工業全体の在庫調整は回避か

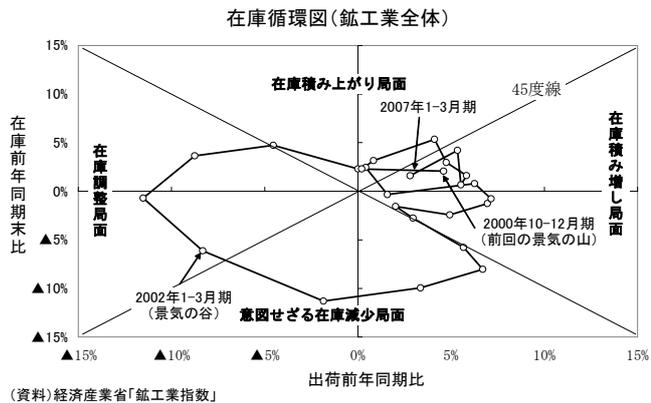
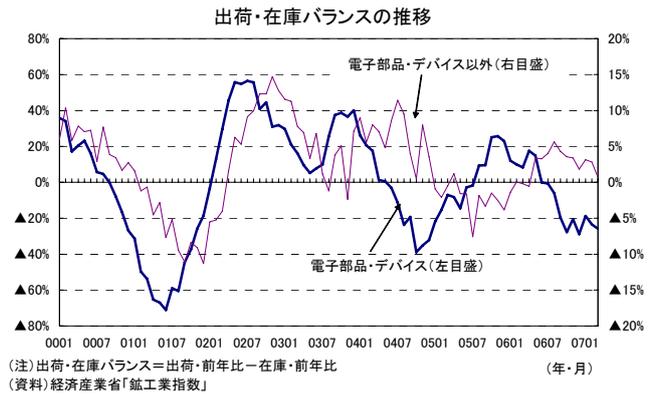
電子部品・デバイスの在庫指数は前月比 2.0%の上昇となり、前年比でも 32.5%と依然高い伸びが続いている。同業種の出荷・在庫バランス（出荷・前年比－在庫・前年比）は▲25.8%と、2月の▲23.4%から若干悪化しており、在庫調整に目処がつくまでにはかなりの時間を要すると見られる。

ただし、それ以外の業種の在庫は総じて低水準で推移している。1-3 月期の在庫指数は前期末比▲2.1%の大幅な低下となり、前年比でも 1.6%と 10-12 月期の 4.2%から伸びが大きく低下した。

1-3 月期の鉱工業全体の在庫循環図は、45 度線に沿って左下方向に向かう動きとなり、引き続き「在庫積み増し局面」に位置している。現時点では、鉱工業全体で本格的な在庫調整が行われるリスクは低いと考えられる。

製造工業生産予測指数は、4 月が前月比 1.5%、5 月が同 1.4%となった。予測指数をもとに計算すると（6 月は前月比横ばいと仮定）、4-6 月期の生産は前期比 2.2%となるため、現時点では 4-6 月期の生産指数は再び上昇する可能性が高いと考えられる。ただし、予測修正率、実現率がマイナスとなる傾向が続いているため、この数字は割り引いて見る必要がある。

現時点では、1-3 月期の生産の低下は一時的なものと考えられるが、米国経済が足もと減速基調を強めており、先行き不透明感もやや高まっていることには留意が必要である。1-3 月期の輸出を数量ベースで見ると、アジア向けは高い伸びを示したものの、米国向けは低迷した。米国経済の停滞が長引くようであれば、輸出の悪化を通じて、生産の低迷が長引く可能性があることには留意が必要だろう。



(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)